

安心してご利用いただくために

Q 富士急行 貸切バス

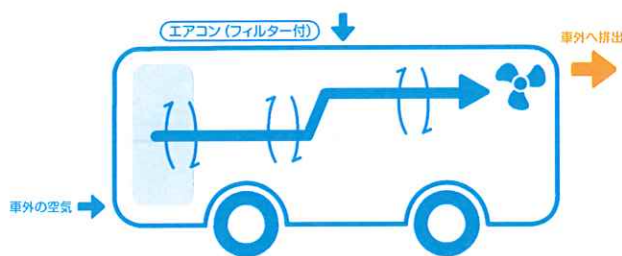
# 新型コロナウイルス感染防止対策

富士急グループでは、安心して貸切バスをご利用いただけるよう様々な対策を行い、感染防止に努めております。



## バス車内の感染防止対策の取り組み

外気導入により約5分で車内の空気が入れ替わる工夫をしています



(出所) 日野自動車株式会社  
「大型観光バス「日野セレガ」の車内空調について」



富士急式

### 車内換気

- ・車両には、「外気導入モード」を備えたエアコンが標準装備されています。
- ・出発前後において、二か所以上の窓開けにより、車内換気を徹底しております。

オゾン処理によりウイルスを不活性化させます



イメージ図

奈良県立医科大学とMBTコンソーシアムグループが世界で初めてオゾンガス曝露による新型コロナウイルスの不活化を確認いたしました(令和2年5月14日)。

【奈良医大の実験結果】

1ppmで60分燻蒸の60CTで1/10~1/100まで不活化

6ppmで55分燻蒸の330CTで1/1000~1/10000まで不活化

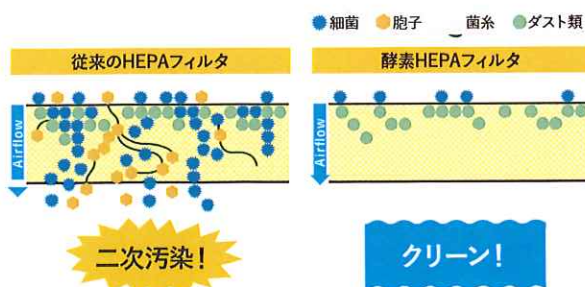


富士急式

### オゾン(O<sub>3</sub>)消毒・消臭

- ・最新のオゾン発生装置を導入、出庫前夜にバス内で高濃度のオゾンが発生させることでウイルスを不活性化させます。
- ・香水臭・飲食臭等も消すことが可能で、効果は数日続きます。

エアコンに溶菌酵素フィルターを設置しています



富士急式

### 空気浄化エアコン搭載

- ・溶菌酵素の作用により、フィルタに捕集された細菌や微生物を死滅させ、車内の二次汚染を防ぎます。

抗ウイルス触媒で車内を抗菌コーティングしています



富士急式

### 車内抗菌コーティング

- ・液体抗菌剤を車内へ噴霧し、座席・手すり等の手の触れる部分すべてを抗菌コーティングすることで、細菌を減少させ接触による感染を抑制します。



## 乗務員による感染防止対策について



車内清掃・換気



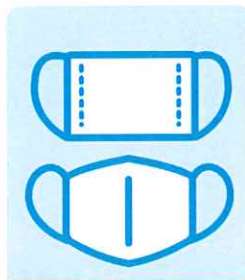
細かな箇所まで  
車内消毒



空間除菌剤



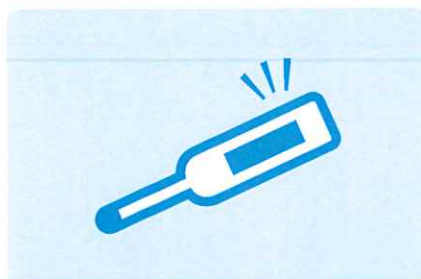
シートで飛沫感染防止



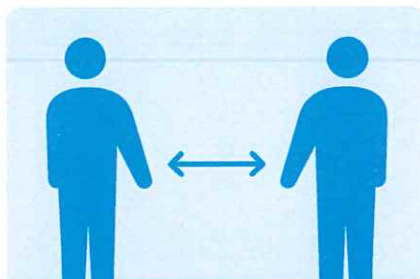
マスクの着用



## 営業所・従業員の感染予防対策について



出勤時の検温



点呼時は距離を保つ



乗降時の手洗い、うがい

## 弊社貸切バスをご利用いただくお客様へのお願い

- 1 ご乗車時は、常備している消毒液を使用して、手指の消毒にご協力をお願いいたします。
- 2 マスク着用と咳エチケットへのご協力をお願いいたします。
- 3 乗降時は、他のお客様との間隔を空けて乗り降りしていただきますようご協力をお願いいたします。
- 4 車内での飲食はできる限り避け、飲酒や大きな声での会話はお控えくださいますようお願いいたします。
- 5 ごみの持ち帰りにご協力をお願いいたします。
- 6 当面の間、カラオケの使用、サロン席の使用を中止いたします。
- 7 お客様が少ない場合は、座席間隔を空けてご利用をお願いいたします。

### ■ 貸切バスのお問い合わせ先 ■

バスセールスセンター TEL:03-3376-1229  
 バスセールス山梨 TEL:055-223-1229  
 バスセールス沼津 TEL:055-951-1229

富士急バス株式会社 TEL:0555-72-6877  
 富士急湘南バス株式会社 TEL:0465-84-0093  
 富士急静岡バス株式会社 TEL:0545-71-2495

富士急シティバス株式会社 TEL:055-921-5367  
 富士急行観光株式会社 TEL:03-5663-7811  
 株式会社フジエクスプレス TEL:03-3455-2211



# 富士急バスは全グループ、安全性評価認定を取得しています

富士急バス全グループの基本方針

## ～安全は全てに優先する～

たとえば、こんな項目の審査を受けています。



- ①安全性に対する取り組み状況について、「記録機能を有するシステム化されたアルコールチェッカーを使用して厳正な点呼を行っているか」「デジタルタコグラフを活用しているか」「ドライブレコーダーを導入して教育・指導を行っているか」「法令順守事項よりも高いレベルにあるか」等の審査
- ②過去2年間に有責の第一当事者となる死傷事故を起こしておらず、且つ過去一年間に有責の第一当事者となる転覆等の事故、又は悪質違反による事故惹起の審査及び行政処分状況の審査
- ③運輸安全マネジメントの取り組み状況について、PDCAサイクル(P=計画/D=実行/C=評価/A=改善)による安全管理体制を全社あげて継続的に改善することや、輸送の安全に係る情報の公表等が適切に実施されているかの審査

## 安全へのさらなる取り組み

### 取り組み① テクノロジーで支える安全性へ

ヒューマンエラーをなくすために、デジタルタコグラフ、ドライブレコーダー等の安全装置を全車に導入しています。人間の判断、行動だけに頼るのではなく、最新テクノロジーの導入とともに、安全をあらゆる方向から支えています。

### 取り組み② 最新設備で支える安全性へ

「GPS機能を兼ね備えたIP無線」「衝突被害軽減ブレーキ」「車線逸脱・車両ふらつき警報」「ドライバーモニター」「横転・横滑り制御」等のシステムを順次導入しており、今後も最新設備の導入や更新を行い、バス車両の安全対策向上に努めています。

### 取り組み③ 人を育て、健全な環境で支える安全性へ

乗務員に対する安全教育や健康管理の徹底として、新入社員の集合教育、安全教育の実施、年4回の集合教育、健康管理マニュアルに沿った指導を行っています。

### 取り組み④ 万が一に備える安全性へ

事故・防災に関する訓練について、冬山・雪山教育、バスジャック研修やドライブレコーダーを活用した事件事例研修を行っています。

### 取り組み⑤ 安心な車両で支える安全性へ

車両点検整備など、安全を確保する取り組みに関して、三ヶ月点検などの法令点検以外に、一ヶ月ごとの車両点検を整備工場で行っています。

### 取り組み⑥ 安全CSの管理体制

安全CS担当を設置し、安全に対する取り組みとして国土交通省が定めたガイドラインに基づき、運輸安全マネジメントを実施しています。これは輸送の安全を確保するため、社内において安全に対する方針や計画を明確に定め、情報の収集、報告連絡体制、教育訓練、安全会議の実施などを、P(計画)-D(実行)-C(評価)-A(改善)サイクルに基づき、経営トップから現場までが一丸となって安全管理体制を構築するものです。



例：三ツ星マーク